

2026年度 福祉学部
一般選抜 A 日程問題

国 語

2026年2月実施

出題科目	ページ	解答番号
国 語 (100点)	4～19	1～27

注 意 事 項

- 1 選抜開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- 2 問題は4～19ページである。
- 3 選抜中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 選抜番号欄
必ず選抜番号（数字）を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
 - ② 氏名欄
氏名及びフリガナを記入しなさい。
- 5 必要事項欄及びマーク欄に正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあるので注意すること。
- 6 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**35** と表示のある問いに対して⑤と解答する場合は、次の(例)のように解答番号35の解答欄の **⑤** にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
35	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。

国

語

(
解答
番号

1

～

27

)

I 次の文章を読んで、後の問い(問一～問十)に答えなさい。解答番号は 1 ～ 14。

筆者の考えでは、生命知能が衰え、人工知能化が進んでいるのは、人間だけではありません。もっと顕著なのは、私たちの社会全体です。人工知能は自動化のために、生命知能は自律化のためにあることを思い出してください。人工知能は、ルールや作法が与えられることを前提としています。一方で生命知能は、自らルールを作ります。もう少し踏み込んで筆者なりに表現するならば、人工知能の目的は与えられた課題を効率的に解くことであり、生命知能の目的は自分で課題を作ることです。

さて日本社会は、人工知能的でしょうか、それとも生命知能的でしょうか？

① 明治維新以降、わが国の発展を支えてきたのは人工知能的な戦略であると筆者は考えています。江戸時代末期、黒船が来航し、わが国の大砲とは異次元の威力を見せつけました。ここで欧米との技術の差を実感した日本は、官民一体となって、欧米 a ショックをお手本とした科学技術の振興を始めます。その後、わが国は着々と国力を蓄えますが、太平洋戦争で再び国力の圧倒的な差を目的の当たりにします。

しかし敗戦後、再び欧米をお手本としながら、見事な復興を遂げ、1968年には、米国に次いで国民総生産(GNP)世界2位の経済大国になります。そして1990年代前半にバブル経済が崩壊するまで、経済は順調に成長しました。この頃までは、わが国を支えた自動車産業にせよ、電機産業にせよ、何を開発すべきか、明確な課題がありました。【1】そして、その開発競争のルールも明確でした。既存製品を少しでも改良し、効率的に安く製造する方法を編み出せばよかったです。最も考えるべきはコストパフォーマンスでした。わかりやすい評価軸のもと、まさに人工知能的な戦略が功を奏した時代でした。 b

筆者が大学生だった1990年代半ば頃、日本の国内総生産(GDP)は約500兆円でした。この数字はとても大切だから、必ず覚えておくようにと先生から教わりました。人口で割ると、日本人は1人当たり400万円強の付加価値を生み出していることとなります。この頃までは経済は当たり前のように右肩上がりです。1980年から15年間で日本が生み出す付加価値(GDP)は2倍になっていました。ところが筆者が大学を卒業してから四半世紀も経った現在も、日本のGDPは500兆円のままなのです。一方で米国や中国は、ここ25年間にわたり右肩上がりの成長を続けています。

このような日本の経済の停滞を目的の当たりにすると、やはり ② 戦略が正しくなかったのではないかと疑いたくなります。産業が発展する右肩上がりの時代、所定のルールのもと、与えられた課題を効率的に解決すべく、人工知能的な戦略による改善・改良は非常に有効でした。【2】しかし解けそうな課題をすべて片づけ、成熟の域に達すると、改善・改良だけでは思うように稼げなくなるのは当然です。

ところで、日本経済の停滞期に二つの大きな革命的な変化が産業界では起こりました。

一つはIT革命です。1995年にインターネットが商用化されると、この商機にグーグルやアマゾンをはじめ先進的なIT企業が次々と誕生し、

全く新しいサービスで経済を牽引けんいんするようになりました。

もう一つはAI革命です。人工知能の研究は古くから進められていましたが、その知能は、人間の域には到底到達できないと考えられていました。ところが2010年代には、画像認識や将棋・囲碁など、さまざまなタスクで人間と同等か、人間を超える人工知能が誕生しました。人間より高性能であれば、使わない手はありません。人工知能は、日常生活やビジネスのさまざまな状況で急速に活用されるようになったのです。

残念ながら、このような革命はいつも米国で起こります。そして当然のことながら、米国がルールや作法を策定します。自らルールを作るのは、Iの特徴です。要するに米国の強さは、IIにあるのです。そして米国が作ってくれたルールに従い、日本はIII的な戦略で再び追随するのです。

(中略)

日本社会の生命知能は、米国社会の生命知能にはとてもかなわないようです。このような現状を打開するために、私たちは、人工知能と生命知能の違いを理解し、今こそ生命知能をキタcえることから始めるべきではないかと筆者は考えています。

2011年の東日本大震災では、福島第一原発が深刻な事故を起こしました。津波による配電盤の浸水のため、原子力発電所への電力を供給できなくなり、原子炉を冷却できなくなったのです。発電所なのに、停電するのかと驚いた人も多かったことでしょう。じつは発電所の停電を想定した訓練は行われていました。しかし訓練のシナリオでは、30分で電力供給が復活することになっていました。それ以上の停電は想定外です。そのようにルールが定められれば、IV的な戦略ではもはや手の打ちようがありません。「30分以上、停電したらどうなるだろう？」と自律的に考えなかったことが残念でなりません。

ちなみに米国の原子力規制委員会のマニュアルには、電源喪失したら、何とかして安全弁を開けて圧力容器を減圧・注水すべきと書いてあるそうです。そのために手動のハンドル、自動車用バッテリー、コンプレッサなど、小道具が現場では準備されているそうです。今となってみれば、「日本の原発もそれくらい考えておけよ」と誰でも思うでしょう。しかし残念ながら、V的な戦略では、そのような発想は出てきません。

そもそも、福島第一原発の事故以前は、原発が事故を起こすかもしれないという考え自体がタブーでした。そのようなことを考え出したら、エネルギー政策として原発を推進できません。そこで、日本では「原発は安全。絶対に事故は起きない」という安全神話を作り、そのもとで何十基もの原発が建設されました。この安全神話こそ、自律的に「考える」ことを妨げてきた(II生命知能を抑え込んできた)日本社会の大きな弱点を示すものなのです。

東京オリンピック開幕まで半年を切った2021年2月、東京五輪組織委員会の会長が突然、ジニン^dしました。その理由は、女性に対する差別的な発言です。「多様性と調和」を基本コンセプトの一つとする東京オリンピックにとって、とても容認できない発言でした。

残念ながら日本は、女性の社会進出が世界的にも少ない国としばしば批判されます。それほどまでに男性社会が容認されてきた理由は何でしょうか？
④ 今になって、多様性（ダイバーシティ）の重要性が叫ばれているのはなぜでしょうか？

筆者は、日本社会の人工知能化に原因の一端があると考えています。先に述べたように、日本は明治維新以来、人工知能的な戦略でそれなりの成功を収めてきました。【3】この大躍進を支えたのは、猛烈な企業戦士「サラリーマン」です。残業や休日出勤もいとわない努力があったからこそ、今の日本の地位があるのです。そして、そのような勤務に耐えられたのは、体力のある男性でした。日本経済の絶頂期、1989年の新語・流行語大賞の一つは、栄養ドリンクのCMのキャッチフレーズ「24時間タカエマスク」でした。これを今の若者が聞いたら、ドン引きすることでしょう。そして、明確な目的のもと「24時間戦う」集団には、とても勝てないとも思うでしょう。

また、言うまでもないことですが、家庭を顧みずに仕事を最優先する男性の陰で、女性も極めて重要な社会的役割を担っていました。しかし日本社会全体は、経済成長という明確な目的のもと、人工知能化を進めました。【4】その結果、当時の日本社会の評価軸では、女性が高く評価されることはなかったのです。

時代が変わるとは、社会の評価軸が変わるという意味です。社会の評価軸の変化により、人工知能的に「24時間戦う」戦略は全くのAになりました。それでは社会の評価軸は、どのように変わったのでしょうか？

当然、経済成長も相変わらず重要な評価軸の一つでしょう。【5】しかしそれ以外に「ワーク・ライフ・バランス」も大切な評価軸になりました。また、日本の人口の3割をシめる高齢者は、働く現役世代と異なり、それぞれ独自の評価軸を持っていることでしょう。このように、すでに日本社会の評価軸は一つではありません。

現在の日本社会に閉塞感が漂っているとすれば、日本社会に共通の評価軸がなくなり、昔のように、みんなが一丸となって一つの目標に向かって邁進できなくなったからかもしれません。そして、この閉塞感を打破するために、評価軸は多様化しつつあるのです。

ダイバーシティの重要性が叫ばれるのは、社会が多様化している証拠です。多様化した社会を支えるのは、性別や人種を問わない多様な価値観であり、それらの評価軸です。ところが評価軸が複数になると、人工知能的な戦略は途端に使えなくなり、多様化した社会では、どの評価軸を選ぶべきか、自律的に決めなければならぬのです。いよいよ人工知能的な戦略をあきらめ、⑥ 生命知能を使わないと、楽しく幸せに生きていけない社会になりつつあるわけです。

（高橋宏知 『生命知能と人工知能 AI時代の脳の使い方・育て方』より）

* 出題の都合上、原文の一部分を改変してあります。

問一 傍線部 a ～ e と同じ漢字を含むものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 5。

a ショコク

1

- ① お寺のユイシヨを尋ねる
- ② ショアクの根源を断つ
- ③ 契約書にシヨメイする
- ④ 前向きにゼンシヨする
- ⑤ ショキ払いに氷を食べる

b ソウ(した)

2

- ① ヒソウな覚悟を決める
- ② 敵を残らずソウトウする
- ③ 管楽器をエンソウする
- ④ 建物の外壁をトソウする
- ⑤ あたり一帯をソウサクする

c キタ(える)

3

- ① 全財産を失いヒタンにくれる
- ② タンラク的な思考をする
- ③ ダイタンな筆致で描く
- ④ 自動車がイッタン停止する
- ⑤ タンレンの成果が出る

d ジニン

4

- ① ジョウのあるものを食べる
- ② 社交ジレイで心にもないことを言う
- ③ 航海に方位ジシャクを用いる
- ④ 世間のジモクを集める
- ⑤ 日照りのあとのジウとなる

e シ(める)

5

- ① 商品のセンデンをする
- ② 政党からスイセンを受ける
- ③ 国家のヘンセンをたどる
- ④ 物腰がセンレンされている
- ⑤ 政にセンセイ術を用いる

問二 傍線部①「明治維新以降」に関連して明治時代に発表された文学作品を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は **6**。

- ① 『檸檬』 (梶井基次郎)
- ② 『道草』 (夏目漱石)
- ③ 『河童』 (芥川龍之介)
- ④ 『和解』 (志賀直哉)
- ⑤ 『破戒』 (島崎藤村)

問三 本文中の【1】～【5】のいずれかに次の一文が入る。最も適切な箇所を、後の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は **7**。

特に、高度成長期以降、経済成長という明確な目的のもと、急激に発展しました。

- ① 【1】
- ② 【2】
- ③ 【3】
- ④ 【4】
- ⑤ 【5】

問四

傍線部②「戦略が正しくなかったのではないか」とあるが、この「戦略」とは具体的にどのようなものか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **8**。

- ① 簡潔明瞭な評価軸のもと、コストパフォーマンスを最大化することを第一義とし、目下のタスクを効率よくこなすことによって、現在の日本経済の停滞から脱却するという人工知能的な戦略。
- ② 欧米を手本としながら、輸入した外国製品を少しでも改善・改良すると同時に、効率的に安く生産する方法を考案し、生産を拡大することを通じて、戦後の復興を進めるといふ戦略。
- ③ コストパフォーマンスの向上を最優先課題として掲げ、それにもとづき、まずは新たなルールの策定と生産体制の効率化をすみやかに行って、将来的に経済を成長させていくという戦略。
- ④ 新しいものを独自に生み出すのではなく、すでにある製品を改良し、少しでもコストパフォーマンスのいいものを生産することによって、経済的な成長も実現していくという戦略。
- ⑤ まずは国家が具体的な数値目標を示し、その下では「24時間戦う」集団が残業や休日出勤もいとわずに働いて、官民一体となって国の経済を発展させていくという明治時代以来の戦略。

問五

空欄 **I** ～ **V** に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **9**。

- | | | | | | |
|---|--------|---------|----------|---------|--------|
| ① | I 生命知能 | II 生命知能 | III 人工知能 | IV 人工知能 | V 人工知能 |
| ② | I 生命知能 | II 人工知能 | III 生命知能 | IV 生命知能 | V 人工知能 |
| ③ | I 生命知能 | II 生命知能 | III 生命知能 | IV 人工知能 | V 生命知能 |
| ④ | I 人工知能 | II 人工知能 | III 生命知能 | IV 生命知能 | V 生命知能 |
| ⑤ | I 人工知能 | II 生命知能 | III 人工知能 | IV 人工知能 | V 生命知能 |

問六 傍線部③「日本では『原発は安全。絶対に事故は起きない』という安全神話を作り」とあるが、この「安全神話」に関する説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **10**。

- ① 原発が事故を起こす可能性を精査した結果導かれたものであり、原発政策を推進する根拠とされた。
- ② 人工知能を原発に導入する論拠となったが、一方で、日本の生命知能の働きを阻害する要因でもある。
- ③ 日本の原発の建設を推進する根拠とされてきたものだが、東日本大震災をきっかけにいつそう強化された。
- ④ エネルギー政策の一環としての原発を推進するためのものであり、人工知能的な発想にもとづいている。
- ⑤ 福島第一原発の事故を受け崩壊したが、それまでは日本の原子力技術の高さを物語るものであった。

問七 傍線部④「今になって、多様性（ダイバーシティ）の重要性が叫ばれているのはなぜでしょうか？」とあるが、この点について筆者はどのように考えているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **11**。

- ① 現在の日本社会に閉塞感が漂っているのは、人工知能的な戦略が機能しなくなったにもかかわらず、いまだにそれに固執し、コストパフォーマンスを追求する風潮が残っているからである。そのような状況を打破し、若者を中心とした多様性を認める社会へと移行していくために、ダイバーシティの重要性が叫ばれることになった。
- ② 「多様性と調和」をうたう東京五輪の開催直前に、組織委員会の会長が差別的な発言をするなど、日本は女性に対する差別が今なお根強い。そのような状況にあつて、これから日本が国際社会で孤立せず、成功を収めるためには、性差の問題を含めた多様性を積極的に認めていく必要があるため、ダイバーシティの重要性が叫ばれることになった。
- ③ 日本が経済成長を遂げた理由の一つは、社会全体で人工知能的な戦略をとったことにある。男性サラリーマンは「24時間戦う」のが当たり前とされたが、今はそのような時代ではなくなり、「ワーク・ライフ・バランス」を重視しながら、充実した私生活を過ごすことか理想とされているため、ダイバーシティの重要性が叫ばれることになった。
- ④ 日本は過去、人工知能的な戦略をとって経済を拡大するなどの成功を収めてきた。それを支えたのは企業戦士であるサラリーマンであり、激務に耐えることのできる男性であったが、今では価値観も多様化し、一人ひとりが自分で評価軸を選択し、生きる時代になってきているため、ダイバーシティの重要性が叫ばれることになった。
- ⑤ 男性社会である日本ではこれまで、女性は社会的役割を担うことはなく、したがって、経済活動に貢献し高く評価されることもなかったが、今では女性が社会に出て活躍することも多くなった。そのような女性に対する差別的な処遇をなくし、女性の能力を多様な分野で活用していくために、ダイバーシティの重要性が叫ばれることになった。

問八 空欄

A

に入るものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **12**。

- ① 時代錯誤
- ② 日常茶飯
- ③ 竜頭蛇尾
- ④ 本末転倒
- ⑤ 自業自得

問九

傍線部⑤「生命知能を使わないと、楽しく幸せに生きていけない社会になりつつある」とあるが、なぜそのようにいえるのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **13**。

- ① 今は、生命力が豊かでなければ経済的に自立できない時代だから。
- ② 今は、自分なりの評価軸に従って楽しさを評価する時代だから。
- ③ 今は、自分で考えて生き方を選択しなければならぬ時代だから。
- ④ 今は、新たに自らの判断でどの集団に所属するかを選ぶ時代だから。
- ⑤ 今は、他人に遠慮せず積極的に自分の人生を楽しめる時代だから。

問十

本文の趣旨に合致するものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **14**。

- ① 日本経済の停滞期に、世界ではIT革命とAI革命という巨大な変化が起こり、日本が国際的に孤立を深めるようになったことが、日本が今でもダイバーシティに対応できないことの遠因である。
- ② 人工知能化した社会は、与えられたタスクをこなすという点では一定の成果を上げるが、現代のように価値観が多様化し、自律的な選択が求められる状況になると途端に無力化し、閉塞状況に陥ることになる。
- ③ かつてのようにみんなが一丸となって目標を達成するというようなことは、現在の日本社会ではまずないが、その分、一人ひとりが個人として尊重され、ダイバーシティが認められる社会になっている。
- ④ 生命知能が衰え、人工知能が進んでいるのは日本だけではないが、日本は自らの手でIT革命とAI革命を起こすことができなかつたのが痛手となり、今でも産業構造を転換できないままである。
- ⑤ かつて人工知能的な戦略をとって成功を収めた日本は、世界で大きな変革が起きても旧来の戦略を捨てきれないでいるが、再び日本が経済的に成長するためには、生命知能的な戦略へと転換しなければならない。

II 次の文章を読んで、後の問い(問一～問十)に答えなさい。解答番号は **15** ～ **27**。

各国が男女の役割分業を乗り越え、女性も外で働くことができ、男性も家庭参加ができるような仕組みに切り替えていこうとしているのは、実はグローバル化をはじめとする経済の大きな変化が到来しているからです。そうした激変に社会を適応させていくための重要なポイントが、女性の能力の発揮であり、男女分業の乗り越えだったのです。

新聞記者として、シンガポールで二年近くの特派員体験をし、また、海外取材や、海外の政府の招きによる視察などを通じてそれらの国々の変化を見る限り、各国は、生き延びるための現実策として、**a** こうした方向に舵をとらざるを得なかったというのが実際のところなのだと感じます。

男女平等度が高いことで知られるスウェーデンの変化の引き金が、六〇年代の世界的戦後復興景気の中での人手不足だったことを教えてくれたのは、九〇年代半ばに来日した同国のベテラン女性国会議員でした。

彼女にインタビューしたとき、「スウェーデンはもともと男女平等が好きな国民性なのですか」と、素朴な質問をすると、「スウェーデンだって、六〇年代までは、男は仕事、女は家庭だったのよ」と笑いました。六〇年代の好況で、人口が少ないスウェーデンは人手不足になり、政府は女性にも働いてもらうという方向を打ち出します。**A**、女性たちは、各地域での小集会でこの問題を話し合い、女性が家庭で抱えてきた介護や育児といった

b ムシヨウの労働を軽くしなければ、女性は安心して働きに出られないと訴える活動に乗り出しました。介護施設や保育施設の充実が不可欠だったわけですが、こうした支えを税金でまかなうには、税の使い道を決める国会などに、自分たちの要望を反映する女性の議員を送り込む必要があります。このように女性がいくつもの地域集会から立候補し始めたというのです。私が出会った国会議員もそのひとりで、彼女は当時二十代の **c** ヨウゴ学校の教員だったそうです。

こうして税によって福祉産業をつくりあげ、ここに女性が賃金労働者として雇われていきます。その結果、女性が税や年金を負担できる働き手になり、国や地方の税収も増えました。増えた税金で、さらに福祉を充実させたというのです。

同一(価値)労働同一賃金の **d** カクリツも、福祉で生活を支える人を減らし、働き手が賃金で生活するために不可欠のものでした。その徹底によって、人が生活できる賃金を払えない会社は、労働市場から撤退せざるを得なくなり、**B**、失業した働き手を、生活できる賃金を払える産業へと誘導するために、職業訓練の充実が必要になっていきます。

C、七〇年代から八〇年代にかけて、グローバル化が進み、欧州は企業が低賃金の国を求めて出て行ってしまいう「空洞化」に見舞われます。製造業などで働く世帯主の男性の稼ぎに、家族が依存する仕組みは行き詰まります。オランダのように、専業主婦が多く、世帯主男性の稼ぎに頼る家庭が多かった国でも、男性の失業が増大し、働く必要を感じた女性たちが増えて行きます。ただ、専業主婦の多い社会では、保育園が整っていません。失業手

当の増大などで国の財政も逼迫^{ひびく}し、保育園を急速に増やすことは無理でした。ここで取られたのが、家庭責任などがあってフルに働けない女性の短時間労働を、「パートの均等待遇」で支えようという発想^eでした。

労働時間を働き手が選べる仕組みを整備し、週に三日だけなら働けるといった条件の働き手にも、時間に比例して賃金の均等を保障し、年金も有給休暇も労働時間に比例して保障する仕組みをとったのです。短時間労働の働き手は、不安定な有期契約が当然という日本のパートとは違って、仕事が引き続きあるなら無期契約という安定雇用も保障しました。長時間労働者だけが働き手の基本的な権利を行使できる従来のやり方を改め、短時間労働でも、それに見合った働く権利を保障する「労働時間の長短による差別の禁止」です。その結果、女性が家族のケアと両立できる働き方を選べるようになり、男性もその収入に支えられて、短時間労働を選べるようになりました。女性の経済力の向上がパートナーの男性の暮らしのゆとりをもたらしたのです。それでは、日本はなぜ、出足が遅れたのでしょうか。それは「遅れていたから」でも「日本の文化が海外とはまったく違った独自のものだったから」でもありません。答えは、そうした激変に踏み込む必要が当面なかったから、と言っているのではないかと思います。

欧米より遅れて近代化した日本では、技術などがすぐれていたわりに、生活程度は高度化しておらず、賃金^あの時代が続きました。そのため、欧米がグローバル化と賃金^いによる空洞化に苦しみ続けた七〇年代から八〇年代にかけて、「勝者」となりました。一億を超える大量の人口の半分を占める女性を、ムシヨウの家事や育児に回し、その支えで男性を長時間働かせて時間単位あたりの賃金を抑え込むことができ、同時に、家事や育児の合間の時間に、女性を^う賃金で働かせることで、賃金の上で、大きな優位に立ちました。女性にムシヨウで育児や介護を引き受けさせることで福祉費用を抑え、これを産業振興に回すこともできました。そうした「強み」を背景に、欧米への「集中豪雨的」ともいわれた大量輸出が進み、各国の製造業をつぶしたと批判されながらも、世界第二位の「経済大国」にまでこぎつけました。

労働組合がまだ勢いがあったこともあり、経済成長の分け前は男性の世帯主を中心に、働き手に還元され、世帯主からその妻子に分配されて、消費は活性化し、国内の景気も拡大しました。七九年には、米国の経済学者エズラ・ボーゲルが『ジャパン・アズ・ナンバーワン』を執筆して日本の経営を^f礼賛し、米国のグローバル経営の退廃を批判しました。日本社会はこれらの相次ぐ「勝利」の中で、^gまちがった成功イメージを学んでしまったのだと思います。

しかし、いまは違います。八〇年代以降の円高を経て、家族全員分を想定した日本の男性の賃金は国際的には^え感を増しました。成熟社会に入り、生活費は高まり、高齢化も進んで、福祉を女性のムシヨウ労働だけに依存することは難しくなっています。「妻つき男性モデル」のもとで働かざるを得なかった正社員女性の多くは、結婚や子育てを先送りにするか、子育てのために仕事を辞めるかの二者択一を迫られます。夫の方は、家族賃金を稼ぐために長時間働かざるを得ないので子育ては妻任せとなります。孤独な子育てに追いつめられる女性が増え、子育てを敬遠する人々も目立ち始めた挙げ句、少子化は急速な勢いで進みました。人口の多さに依存して、人口の半分をムシヨウの労働に据え置く政策は、^{きた}今や破綻を来しています。

D 男性の長時間労働も、うつや過労死など様々な弊害を生み出しました。若い男性社員の中には子育てなど家庭生活に積極的に関わりたいたいという意識も芽生えています。が、「妻つき男性モデル」の働き方を当然とする日本企業の労務管理では、それもありません。さらに、家族賃金を前提とする男性正社員の人件費負担に「ネ」を上げて、企業は正社員のリストラや非正社員の起用を進め始めています。そんな中で、女性はもう、男性世帯主に経済的に依存することはできません。製造業の空洞化が進み、社会は福祉・サービス産業への傾斜を強め、こうした産業に強みを発揮する女性の働き手なしでは経済は成り立たなくなりつつあります。

一方、こうした事態に危機感を抱く政府や企業は、「活用」として、地域や福祉、職場での女性の貢献度の拡大を求めがちです。しかし、こうした活動を支える保育や介護には公的な費用はさかれず、女性たちからは悲鳴のような声が上がっています。

そんな不満を吸い上げるように、二〇〇〇年前後には、女性の社会進出を批判し、従来の「家庭で男性に仕える女性」を基本とする日本社会に戻そうとする議員や識者、団体などから、「男女共同参画批判」が声高に叫ばれ始めました。こうした事態を乗り越えるには、女性自身が、日々の生活の中でもつとゆとりを確保するために、「こうすれば私は働ける」「こうすれば、もつと安心して暮らせる」と生の声をあげられる発言の場を広げていく施策が不可欠です。

昇進や抜擢^{はつてき}を受ける女性の中には、男性と同じか、それ以上に既存のルールを支持する発言をする例も多く、「女性が増えても何も変わらない」との声も、よく聞きます。それは、登用の数が少なすぎて、多数派の男性のルールに従わざるを得ないことが一因ではないでしょうか。また、登用が一部の女性に限られているため、男性中心にできあがったルールに適應できる「最も男らしい女性」が選ばれがちなことでも大きいでしょう。多様な女性が参加できないのです。少数派が三割を超えると、少数派が生きやすいルールに向け、その組織自体を変える力になります。組織が変わらず、数だけが増える中では、生きにくいルールの中で、少数者同士の競争だけが激しくなり、息苦しくなるばかりだからです。国連の文書などで、少なくとも三割以上の女性比率が必要とされているのは、こうした限界を克服するためです。

過去の成功イメージへの依存から現実の変化に対応できる男女関係へ、女性を都合よく利用するための活用ではなく女性が自身をよりよく活かすための活用へ――。それなしでは、日本は「女性活用小国」のEすることはできないでしょう。

(竹信三恵子『女性を活用する国、しない国』より)

* 出題の都合上、原文の一部分を改変してあります。

問一 傍線部 a 「こうした方向」の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **15**。

- ① 外国人労働者を受け入れ、労働力不足を補い国内の生産力を補うこと。
- ② 性別に関わらず、能力に見合う仕事に就けるような社会に変化していくこと。
- ③ 出産や子育てのために、母親が数年間にわたり休業できる仕組みを整えること。
- ④ 子どもたちが将来グローバル競争に勝てるように、高度な教育機関を増設すること。
- ⑤ グローバル競争に打ち勝つために、国内製品のみを購入するよう国民へ政府が推奨すること。

問二 空欄 A、B、C、D にあてはまる語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

ただし、同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は **A** | **16**、**B** | **17**、**C** | **18**、**D** | **19**。

- ① また
- ② その後
- ③ しかし
- ④ その結果
- ⑤ たとえば

問三 傍線部 b 「ムシヨウ」、c 「ヨウゴ」、d 「カクリツ」を漢字にしたときに、その組み合わせとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選び

なさい。解答番号は **20**。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|
| ① | b | 無償 | c | 擁護 | d | 確立 |
| ② | b | 無性 | c | 擁護 | d | 確率 |
| ③ | b | 無償 | c | 養護 | d | 確立 |
| ④ | b | 無償 | c | 擁護 | d | 確率 |
| ⑤ | b | 無性 | c | 養護 | d | 確率 |

問四 傍線部 e 『パートの均等待遇』で支えようという発想』に合致するものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は **21**。

- ① 男性(夫)が失業している場合、パートナーである女性(妻)がパートで働いて家計を支えようという発想
- ② 正社員の男性(同僚)が退職して空いたポストを、女性のパートを優先的に採用して職場の窮地を救おうという発想
- ③ パートで働く女性の時給を、フルタイムの労働者と比べてバランスがとれる程度に差をつけた金額で働いてもらおうという発想
- ④ 専業主婦だった女性が外で働くようになったことで、失業していた男性の再就職が難しくなったため、より高所得なパート労働への期待が大きくなったという発想
- ⑤ 一週間の所定労働時間が短くても、時給換算ではフルタイムで働く労働者と差がない賃金を出すことで、それまで働いていなかった女性たちに短時間でも仕事を担ってもらえるようにしようという発想

問五 空欄 **あ**、**い**、**う**、**え** にそれぞれあてはまるものの組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

解答番号は **22**。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|---|---|----|
| ① | あ | 割安 | い | 高騰 | う | 低 | え | 割高 |
| ② | あ | 割高 | い | 割安 | う | 低 | え | 割安 |
| ③ | あ | 割高 | い | 高騰 | う | 高 | え | 割高 |
| ④ | あ | 割安 | い | 高騰 | う | 低 | え | 割安 |
| ⑤ | あ | 割安 | い | 割安 | う | 高 | え | 割高 |

問六 傍線部 f 「礼賛」の読みとして正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **23**。

- ① れいさん
- ② らいしょう
- ③ らいさん
- ④ しょうさん
- ⑤ れいしょう

問七 傍線部 **g** 「まちがった成功イメージ」を示すものとして適切でないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **24**。

- ① 働き手の賃金を安くし、欧米の産業を潰してでも日本製の安い良品を輸出し販売することが日本の生きる道だというイメージ
- ② 家庭内でムシヨウ労働をする女性と、賃金労働者の男性という性別役割分業が、日本の経済成長に大きく貢献しているというイメージ
- ③ 企業の増益分の一部は、賃上げや賞与などで労働者に還元され、国内消費が拡大している実態から、男性正社員が長時間労働を強いられる働き方であっても仕方がないというイメージ
- ④ 人口の半分を占める女性に家庭内や親族へのムシヨウの家事・育児・介護を任せらることで、福祉政策への国費を抑えることができるため、性別による分業を解消する必要はないというイメージ
- ⑤ 労働組合の強い発言力により企業内の職場環境が改善され、特に非組合員であった非正社員の待遇が改善されたことが、大量の良品を日本が製造・輸出し、各国とのグローバル競争に勝ち得た秘策であるというイメージ

問八 傍線部 **h** 「ネ」を漢字で書いたときに、それと同じ漢字を用いるものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **25**。

- ① ネ入りばなを起こされる。
- ② この毛皮は少々ネが張る。
- ③ どこからか鐘のネが聴こえた。
- ④ 部下に手柄を横取りされたとネに持つ。
- ⑤ 明日の試合の作戦をネる。

問九 空欄 **E** に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **26**。

- ① 名誉を奪取
- ② 汚名を返上
- ③ 名誉を棄損
- ④ 汚名を奪取
- ⑤ 名誉を挽回

問十 問題文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は **27**。

- ① 六〇年代の世界的戦後復興景気において、スウェーデンでは好景気による人手不足に見舞われた。それを打開するために、政府は女性にも雇用者として働いてもらうという方針を打ち出し、女性たちもそれに応じた。こうして男女が共にフルタイム雇用者として働き、税や社会保険の担い手になることで充実した福祉国家を創造することが可能になったのである。今後の日本にとっては、スウェーデンの事例のように、まずは専業主婦の女性をフルタイムで労働市場に参入させることこそが重要なのである。
- ② 七〇年代から八〇年代にかけて、経済のグローバル化により欧州の企業では、それまで国内にあった工場をより人件費の安い海外に移転させた。こうした企業の経営方針により、国内の特に製造業で働いていた男性が失業することとなった。こうした状況の下、オランダでは失業した男性に替わり、専業主婦だった女性が短時間労働者として市場に参入し家計を支えることとなった。その後男性も短時間労働者として職に就くようになった。オランダの事例から日本が参考にすべきことは日本の男性もフルタイムではなく短時間労働者として働くことを選べるようにする政策が必要だという点である。
- ③ 八〇年代以降、それまで女性が家庭内で担ってきたムシヨウ労働を代替する仕組みが、依然として地域や市場に十分でなかったため、多くの正社員女性は仕事か育児かのどちらか一つしか選べなかった。一方、パートナーである夫は、家族全員が生活できる賃金を稼ごうとするため、長時間労働をせざるを得なくなり、妻とともに育児参加することは離しい状況に陥った。これらの状況から、日本では少子化が急激に進んだのである。
- ④ 二〇〇〇年前後になると、政府や産業界がこれまで打ち出してきた女性活用政策について反発する意見が噴出した。少子化が進んだことで、その要因を女性が就業しているからだとする意見が議員や有識者から出され、経済成長が期待できた九〇年代後半のように、「男性は仕事、女性は家庭の中でムシヨウ労働」へと回帰することが日本の社会には最適であるとされたのである。
- ⑤ 現在の日本で、女性が自分自身を社会で活かすために必要なことは、「こうすれば私は働ける」「こうすれば、もっと安心して暮らせる」という声をあげていくことである。これまで大多数の男性が働いてきた社会や組織では、「妻つき男性モデル」の働き方のルールがすでに出来上がっている。女性が一定数参入することができる社会や組織を作り出すには、それらをすべて解体しなければならぬ。そこでまずは男性のルールに適応できる女性を中心に話し合いをすることで、新しい職場のルールを男性たちが再構築する必要がある。

2026年度 福祉学部 一般選抜 A日程

国語（マークシート式・60分・100点）

大問	小問	細分	正解	配点	大問	小問	細分	正解	配点
I	問一	1	②	2点	II	問一	15	②	4点
		2	③	2点		問二	16	③	3点
		3	⑤	2点			17	④	3点
		4	②	2点			18	②	3点
		5	⑤	2点			19	①	3点
	問二	6	⑤	3点		問三	20	③	4点
	問三	7	③	3点		問四	21	⑤	5点
	問四	8	④	4点		問五	22	①	4点
	問五	9	①	5点		問六	23	③	3点
	問六	10	④	5点		問七	24	⑤	5点
	問七	11	④	5点		問八	25	③	4点
	問八	12	①	5点		問九	26	②	4点
	問九	13	③	5点		問十	27	③	5点
	問十	14	②	5点					